

♪新着案内♪

# 図書だより 12月号



平成 29 年 12 月 19 日 輪島市立輪島中学校

今月は、いろんなタイプの「泣ける本」紹介します!!冬休み中の読書におすすめです。

「いのちの花」 向井 愛実/著

“人間の骨はお墓に入れてもらえるが、動物の骨は事業系廃棄物、つまりゴミとして扱われるのだそうだ。”

涙ながらに犬や猫の殺処分場を見学した女子高生たちは、自分たちにも何かできることはないかと殺処分された後の大量の動物の骨を使って、『いのちの花プロジェクト』を立ち上げる。感動の実話です!



こちらの本は、  
当時の高校生が  
著者です。

「世界でいちばん悲しい花」 滝 晴己/著

フリーライターが上記のいのちの花プロジェクトに参加した女子高生のそれぞれのストーリーに加えて高校の先生方のお話を書いた本。こちらの本のほうがページ数も多く、読みごたえあり。

映画化  
決定です!!



「さよなら、田中さん」 鈴木 るりか/著

“もし死にたいくらい悲しいことがあったら、とりあえずメンを食え。”

著者は、なんと現在中学2年生で当時小学生の時に『12歳の文学賞』を史上初3年連続受賞したすごい人なのです!貧しくても明るく生きる母娘の日常を中心に、時にはほろっと悲しい出来事も見事に表現しており、とても中学生が書いたとは思えないのです。母娘のまっすぐでユーモアたっぷりの物事に動じないキャラクターがとても魅力的で、こんな人になりたいと思いました!



4年ぶりの新作!  
以前の作品とは  
雰囲気が違い  
ます。

「僕はロボットごしの君に恋をする」 山田 悠介/著

2060年、人型ロボットを使った極秘プロジェクトが進行していた。AI、車の自動運転や三度目の東京オリンピックの話題がちりばめられた感動長編。ロボット操作官の健と同級生の妹の恋の行方が気になって一気に読みまちがいなしです!



山田悠介



「8年越しの花嫁」 岡田 恵和/著

“人の心の力。それだけが悲しい出来事に勝つ唯一の武器なのではないか。”

もしも、恋人が意識が戻らなくなったら何年も待つ自信がありますか。尚志は献身的に毎日お見舞いに通い、ついに麻衣の意識が戻るが彼女は尚志の事を思い出せない状態に…。今、話題の奇跡の実話を小説化。

